

野菜といっしょ、そんな生活 野菜で彩る、春のお弁当

[ベジィ・ステディ・ゴー!]

STEADY GO!



全国
マルシェ
情報

2010
Vol.9

NPO法人 日本ベジタリアン協会
推奨本

野菜で彩る 春のお弁当13

レシピ
マクロビオティック弁当/ローフード弁当/キッズ弁当/
ひじきづくし弁当/素材まるごと弁当 etc...

Start up Veggy Life!

- 人気ベジブロガーの素顔を知りたい!
- 疲れたカラダをサポートする野菜グッズ
- 世界のヨギ達にみるベジ事情

プチ

ベジィライフ はじめよう!

地球と共存した美しい生き方 真の美しさは内側から

益戸育江さんを訪ねて

RIKACOさんインタビュー

Smile is Beautiful

奇跡を起こすデザインにせまる



世界各国で数々の受賞歴を誇るアートディレクター／グラフィックデザイナーの水谷孝次。デザインの世界で30年近く生きてきた彼は、1999年に「MERRY PROJECT」をスタートさせる。それは彼の強い思いをカタチにしたもの。そして、新しい時代のデザインでもあった。プロジェクト発足から10年が経過した今、初めての著書となる『デザインが奇跡を起こす』を刊行した氏に話を訊いた。

■画像提供 MERRY PROJECT / 水谷事務所

水谷氏の本から連想すること。それは、道に迷う人たちの足元を照らし出すダウンライトだ。灯台のように遙か先を照らす強烈な灯りと感じる人もいるだろうが、決して消えないささやかな微光でもある。この本が世に送り出されるきっかけは、やはり「MERRY」が関わっていた。

きっかけの一つに、「MERRY PROJECT」をはじめ10年が経ったということがありました。自分が手がけてきた仕事やプロジェクトをただまとめるのではなく、読んだ人が「MERRY」（幸福、喜びなど）な気持ちになれるものにしたかった。デザイナーを志す人だけでなく、少しでも多くの人に読んでもらいたい。本として刊行するからにはその気持ちは当然ありました。デザイナーですから文章を書くのは本業ではありませんが、「デザインで社会や地球を幸せにしたい」という僕の強い思いを再確認する作業にも

MERRY PROJECTの10年をふりかえる

水谷氏は世界25ヶ国で3万人もの人々の笑顔を撮影し、一人一人の「MERRY」（楽しいこと、幸せなとき、将来の夢など）を尋ねてきました。時には水谷氏のことを指して「YOU」と書いてくれた子も。そんな笑顔を原動力に、10年間を駆け抜けてきたMERRY PROJECT。水谷氏がまいたMERRYの種が花を咲かせ、世界に笑顔の花が咲き誇るまで、彼はシャッターを押すをやめないでしよう。その10年間の軌跡をご紹介します。



1999 MERRYが生まれたきっかけはラフォーレミュージアム原宿で行った展覧会

なりました。直接・間接問わず僕と関わった人々をMERRYにするという目標があるので、この本を読んでもださった方々にもその思いを届けたいですね。

デザイナー修行時代のエピソードの一つ、彼の師である田中一光氏からかけられた言葉が心に残る。「いいものをたくさん見なさい。いい人に会いなさい。いい本を読みなさい。いいものを食べなさい。いいものを自分の中に取り込むことが必要だ」。彼はこの言葉とそこに込められた思いを、自分の事務所のスタッフはじめ若い世代に届けている。新しい世代を成長させるのも、また一つのデザインであるかのように。

人が表現する様子を一本の木にたとえてみます。（紙に木のイラストを描きながら）地面に根を張り、太い幹を有し、様々に枝分かれした木です。僕は、ペーパースとなるものは誰もが同じだと思ってい

ます。枝になる実がその人の個性としての表現になる。実はその人の得意分野でもあります。それ以外は皆共通している。それで自分自身とその人生をデザインしてもらうために、実以外の部分を作るのを助けてあげたいと思っています。スタッフに限らず、それは口をすっぱくして伝えています。

「MERRY PROJECT」が駆け抜けたこの10年で、非常に多くのことが変わっていった。彼は数多くのデザイナーが求める功績や名誉に背を向けることを選ぶ。しかし、社会は笑顔を求め続けた水谷氏のデザインを必要とするようになった。彼の中で視えていた、次の10年。さらなる変革が求められる10年。彼は何をどのようにデザインするのだろうか。

僕が昨年行った病院内のデザインと、農業を趣味として楽しむ「Farminig」というデザイン、その次に考えているこ



2005 水谷氏の地元愛知県で行われた万博でも大好評を博した「MERRY EXPO」



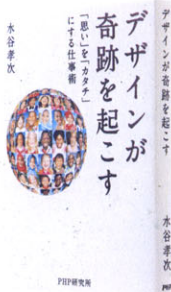
2008 記憶に新しい北京五輪開会式のオープニングセレモニーで花開いた2008本のMERRYな笑顔の傘



2009 インドネシア・スマトラ島沖津波の式典でも笑顔の傘が開いた

2010 MERRY BOWWOW
MERRY IN OSAKA
MERRY GO ROUND
詳細はWEBで
<http://www.merryproject.com/>
これからもMERRYの旅は続いていく

●BOOK
今作は、インタビュー中にも語られているような水谷氏のデザイン哲学や「MERRY PROJECT」の活動を中心に描かれている。「思ったら飛べ!」という信念を胸に突き進んできた彼の歩みが、いかに人の心を捉え変えてきたのか、その軌跡が詰まっている!



デザインが奇跡を起こす
発行:PHP研究所
価格:1,470円(税込)



読者プレゼント!
3名様に
応募は巻末のハガキから



●プロフィール

水谷孝次

1951年名古屋市生まれ。80年代から90年代にかけて、世界各国で数々の賞に輝く気鋭のアートディレクター/グラフィックデザイナーとして活躍。その後、1999年にはじめたMERRY PROJECTで世界中の人々の笑顔とMERRYなメッセージを取材して回る。これまで世界25ヶ国で撮影した3万人以上の笑顔とメッセージはサイトでも見ることができる。

MERRY PROJECT

<http://www.merryproject.com/>

人は、その成長の過程で笑顔を消失することもある。彼が撮影した子どもたちも、その無垢さの輝きを失うシーンに直面するかもしれない。それが生きるということでもあるからだ。MERRYの活動を知ったとき、そういう人たちに對して水谷氏はどういう言葉をかけてあげるのが気になっていた。深い沈黙の後、彼は一つのフレーズを口にした。

とに地域社会の活性化があります。実際にそのプロジェクトは進行していて、町全体をデザインすることになりました。マクロの部分は地球環境を考えながら、ミクロの部分は商店街がシャッター通りになってしまっているような地方都市を元気にしたいですね。その地元の特産品や採れるものをブランド化してMERRYグッズを作るとかね。僕はもう一度、この日本という国に奇跡を起こしてほしいんですよ!

水谷氏は行動の人である。彼を突き動かす原動力(ガソリン)となっているものに「情熱」という言葉がある。その情熱の炎を消すことなく、たえず燃やし続けられる理由は何があるのだろうか。戦争で人が変わってしまった父を見て、この国を変えたいと痛感した3歳のと

やはり、「思ったら、飛べ!」ですね。好きなことをどんどんやっていけばいいし、下を向いている暇があったら、上を向いて笑えばいい。その上で、「人を幸せにする仕事」を心がけてほしいと思う。僕の大好きなブツダの言葉「和顔愛語」のように、笑顔とやさしい言葉を与えてほしい。これが僕が考える資本主義ではないMERRY主義です。新しい時代の幸福論です。人の心にそれが芽生えるために、僕に何ができるだろうとずっと考えています。

きの記憶が、まるで強迫観念のようになっていることはあるかもしれませんが、それは少年の心やロマンが消えることなくいつまでも残っていると解釈しています。だから、常に何かを作っていないと身体がウズウズしてしまうし、自分の身体がどうなるうとも、思いの強さをカタチにするまでは動くことをやめないんです。これからは、ギリギリのところ到我が身を置いて、その中でいかに楽しむかを心がけてデザインしていくだろうなあ。それが誰かの幸福へとつながっていくますし、デザインで人を幸せにするという僕の夢の実現でもあるんですから。きっと僕の最期は、病院のベッドの上で看護師さんたちにカメラを向けて、「はい、にっこり〜!」なんて言いつてシャッターを押してるでしょうね。「みんなの笑顔で病院をデザインしちゃおうよ」って。